医療相談Q&A

無料相談窓口新設し口腔外科の理解進める

奥羽大学歯学部（郡山市）
口腔外科専門医・指導医
教授　高田　訓先生

思いがありました。（開設は）遅いぐらいだったのかも知れません。

Q「口腔外科」という言葉は、あまり耳慣れませんね。

A　みなさんは「お医者さん」と「歯医者さん」と、2通りの医師がいることはご存知ですよね。そして、歯を診てもらうのは歯医者さんですが、歯医者さんは歯だけを診ればいいのではないのです。

口の中の空間を「口腔（こくう）」といいますが、ここにある歯は当然ですが、粘膜、舌、唇、歯ぐき、ノドチンコ。更に、あごの骨や関節、唾液を作る腺、味覚や言語まで受け持つのが歯医者なんです。ですから、正しくは「口腔医師」とか「口医師」とかいうべきかも知れません。（笑）

Q　話をしたり、物を食べたりする口の機能のすべてを診る、と。

A　名大関といわれた初代貴ノ花関は、当初は口内炎といわれ、その後、次男の貴乃花親方（当時）が口腔底がんと病名を発表しましたが、この病気も口腔外科の担当です。

Q　歯医者さんが〝がん〟まで診る…初耳です。

A　口の中にできものが出来た時、歯医者さんにいく人は少ないでしょう？　もちろん、「口腔外科」と診療科を掲げている病院やクリニックでは診て頂けますが、専門家が少ないのが実態です。

歯科大、歯学部を卒業して「歯科医師」の資格を得ると歯科、歯科口腔外科、矯正歯科、小児歯科の4つの診療科を掲げることが出来ます。しかし、看板に「歯科口腔外科」とあっても実際には、一般的な歯の治療が中心になります。

Q　歯医者さんの数は少なくないのに―。

A　厚生労働省の調査（平成18年末時点）では、本県の10万人当たりの歯科医師数は66・1人ですので、およそ1200人ほどの歯医者さんがいる計算ですが、その中に口腔外科の専門医は20人もいませんし、更に指導医となると、たったの3、4人です。

県内には数少ない口の中診る専門家

Q　3月2日に「口腔外科相談窓口」を設けられましたが、なぜこの時期に？

A　入院用の病室や相談室、検査室などハード面の態勢が整ったことが〝この時期〟に対する答えですが、地域医療とか県民の健康づくりといった視点で考えますと、県内の口腔外科という診療分野が非常に遅れており、現状を打破したいという

●略歴●昭和39年12月、北海道札幌市生まれ。札幌月寒高校から東北歯科大学（現奥羽大学歯学部）に進み、平成元年3月に卒業。4月に奥羽大学大学院歯学研究科に入学し、4年3月に歯学博士の学位（神経・筋肉の再生および回復に関する研究）を取得。4月に口腔外科助手に就き、講師、助教授を経て19年4月、教授に。

全身の症状が出る口は病気の信号機

Q　新しく設けた窓口ではどんな相談を？

A　歯が原因の病気のほか、口の中ののう胞（化膿した水泡）や腫瘍（悪性・良性）、口腔や顎（あご）、顔面の外傷、顎関節疾患、口唇裂・口蓋裂などの病気の相談を受けます。

極端にいえば、口に関することなら何でも相談してください。舌や歯肉のがん、口の中の違和感や変色、味覚や感覚の異常など、不安や心配なことにすべて、無料で相談を受けます。

Q　違和感や変色があると、どんな病気が予想されますか？

A　がんの前段階の状態を「前がん状態」とか「前がん病変」といいますが、口の中の違和感や変色が、それであることもあります。また、貧血や白血病の危険信号であることもあります。

Q　味覚異常は？

A　脳腫瘍や自己免疫疾患、アレルギー、更には、骨のがんである骨髄腫なども考えられます。

Q　口が渇く人は糖尿病、とよくいいますが？

A　「更年期障害だと診断された」という女性を診たことがありますが、「口が渇く。違和感がある。味覚障害もある」というので調べたところ、全く別の病気（血液疾患）を見つけたこともあります。

大事なことは、口の中に出てくるいろんな症状を診ることで、全身のほかの臓器にある病気を見つけることがある、ということなんです。見えない体の中の病気のサインが、口の中に出るんです。

Q　それが口腔外科の目的なんですね。

A　「目は口ほどに物を言う」ということわざがありますが、「口は見ているだけで物を言う」でしょうか。（笑）

また、窓口では「どこ（の病院や診療所）に通ったらいいか分からない」とか「地域の専門医を知りたい」などにも、症状に合わせてお答えします。

口腔外科もやはり早期発見早期治療

Q　相談して見つければ命が助かる…。

A　がんはもちろん、どんな病気も早く見つけ、早く治療にかかることが大事です。口の中は、鏡を使えば自分で見ることが出来るだけに、「自分で見て、知っている」という安心感、悪くいうと油断につながります。それが危ないのです。

例えば、口腔がんの場合、早い時期に見つければ100％完治します。5年生存率も80％を超えます。目に見える場所ですから、早くさえ見つかれば…。

ただ、歯医者さんにいったからといって、すべてが見つかるわけではありません。そこで、口腔外科の出番なのです。

Q　シニア世代への注意というと？

A　当然、こうした病気は年を取った方に多く出ます。ある農家の方ですが、口の中に異常を感じたが「口内炎だろう？」と自己診断し、「田植えが終わったら」「稲刈りがすんだら」と先延ばししてしまい、私が診た時には手遅れでした。

初代の貴ノ花関は口腔底がん、つまり舌の下側のアゴのがんでしたが、発見さえ早ければ命を落とすことはなかったんじゃないか。

猛烈に働いてきた団塊の世代の方は、「忙しい」「時間がない」とよくおっしゃいますが、命を落とすほどの「忙しさ」はないんじゃありませんか。

Q　口の中は自分で見て触ることが出来るのに、案外、お医者さんの手の届かない場所になっているんですね。

A　歯は歯科、ノドは耳鼻咽喉科で、その間の領域は口腔外科なんですが、この認識がみなさんの間でも、そして医師の世界でもまだはっきりと出来ていない。灯台下暗しですかね。（笑）

Q　口の中の異常は口腔外科だ、と頭に叩き込んでおきます。

口腔外科相談窓口＜相談無料＞
実施日■毎週金曜日（予約制）
時間■午前9時～正午
担当■口腔外科専門医
大野　敏、高田　訓、
金　秀樹、濱田智弘
場所■奥羽大学歯学部附属病院
郡山市富田町字三角堂31－1
予約連絡先■024-932-9327（口腔外科受付）
電話受付時間■平日：午前9時～午後5時
土曜：午前9時～正午

ご自由にお持ち頂く新聞です
「団塊の世代」の方にお勧めください
iki2ikitown@yahoo.co.jp
2009年3月［通巻54号］
いきいきタウン新聞
発行　㈱いきいきタウン
〒960-8253　福島市泉字堀ノ内前5－28　TEL・FAX 024－531－2215